

JTU 第2種公認審判員認定試験 <問題と解答の要点>

○金国実施日2013年2月24日

問1 JTU 競技規則第2章（競技者規範）の（第11条：交通ルールの遵守）をもとに、手本となる事例を示してください。さらに違反となる事例を想定し、これを示しながら、対応方法について述べてください。複数の選択が可能です。（30点）

解答の要点） 審判業務は大会前日から始まっていることを認識すること。特に、練習時に大会会場周辺で交通ルールとマナーを守ることは、大会継続への必須事項である。そのため、技術代表と審判長は、実行委員会などと連携し、大会前日の審判体制を整える。この問題に係る事例は多い。ヘルメットの着用は選手の安全を守り、練習中の選手の識別にも役立つ。交差点での走行違反は、地域住民への深刻な影響を与える。

問2 JTU 競技規則第6章（スイム：水泳）の（第53条：小休止）及び（第54条：緊急時の心得と合図）をもとに、これまでの審判経験（見聞を含む）からの事例を示し、どう対応したか、さらにはどう対応することが良かったなどについて述べてください。（30点）

解答の要点） スイムのコースは、競技会場により様である。また、水面は自然の影響を受けやすい。選手の状況を見分けるのは難しい。そのため、スイムでは特に選手の自己管理を促すことになる。競技環境を選手に正確に伝えることも安全管理に有効である。過去の事例では、選手が助けを求めているのか、あるいは大丈夫との意思表示をしているのかが分からず、事故につながったことがある。選手が競技を棄権したときの連絡の不徹底による混乱も報告されている。監視船の配置にも気を配らなければならない。選手から離れすぎていることが多い。水面上での動きは陸上のそれとは異なり、思うに任せないことが多い。このような難しい条件のなかで、審判員の目線は、監視体制と選手の両方に注がなければならない。

問3 JTU 競技規則第8章（バイク：自転車）の（第94条：追い越しと手順）をもとに、競技の公正と選手の安全を考慮し、違反を含む各種状況を想定しながら、対応について述べてください。複数の選択が可能です。なお、ITUルールでは、ドラフトゾーンは7mから10m（ロングディスタンスでは12m）、同ゾーンへの進入制限時間は15秒から20秒に変更されています。（30点）

解答の要点） スムーズな追い越しを促すには、キープレフトが守られていることが基本である。さらに、審判員は、選手が「追い越しを試みている」ことを体感的に識別できるよう心掛けたい。その間にも、審判が位置する前後に気を配りながら、コースの不良個所などもチェックし、必要に応じ本部に連絡するなどの連携を意識する。選手が追い越しを試みているときは、バイク競技でもっとも事故が起きやすい瞬間である。審判の判断を的確に行うことは大事であるが、危険を感じたら、審判の途中であっても一時断念し、危険回避に努めることも心得の一つである。

問4 JTU 競技規則第9章ラン（ランニング）の（103条：フィニッシュ）をもとに、各カテ

ゴリーの大会を想定しながら、対応について述べてください。複数の選択が可能です。メディアカル面、抗議の申し立て、着順確認などに触れることもできます。(30点)

解答の要例) ロンドンオリンピックでの女子トライアスロン競技での写真判定など、陸上競技のような際どい判定が増えている。そのためITU世界トライアスロンシリーズやワールドカップでは、写真判定機器の設置が義務づけられるようになった。

フィニッシュでの判定には、前述以外には、審判長あるいは審判長が指名した者がフィニッシュラインの両サイドに立ち、正しく判定する。この配置が疎かになることがある。

この地点はもっとも目立つ場所であることを意識しなければならない。審判ウェアを整え、テレビ放送のある大会では、背景にあったウェアを着用することも検討したい。

さらに、倒れこんでくる選手の救護。女子選手には女子の救護スタッフがふさわしい。そして、抗議などがある選手には、適切な指示を与えなければならない。

問5 JIU 競技規則の全般(前述以外)から、自由に項目(複数可)を選び、選んだ理由とその背景などを交え、審判員としての考えを述べてください。選手として審判としての実体験を述べ、分析することもできます。(30点)

解答の要点) ルールは様々な事例に基づいて制定されている。これらのルールの背景には大会での数限りない事例がある。状況説明、選手・審判の感情の変化、各対応、改善への意思。受験者の解答がトライアスロン発展のカギとなる。

◎ 特別ポイント作文

トライアスロンの審判現場で良かったことや困ったことを示し、その理由と「どう対処したか」、また「どう対処すべきであったか」を述べてください。さらに、これらに係るコース設定や運営の改善面からの展望を述べることもできます。(追加点最高30点)

解答の要点) 大会の後にはどうしても反省ばかりが目につく。良かったことは後回しになってもしっかりとメモしておきたい。選手と審判員、ボランティアと審判員の心温まる話題は少なくない。

ルール違反を未然に防ぐこと。そのためには、日頃から選手の言動に注意を払う。また、違反を見つけたら、その場で注意する。審判も選手も同等である意識。注意の仕方の配慮。審判みずからがルールを守る機運をつくる。

適切な大会運営がルール違反を未然に防ぐ事例も多い。さらに、万能ではない人間が勘違いや錯覚で意図せずに違反状態となる。審判員が誤った判断をすることもある。仮設コースゆえに起こる様々なことが書かれ、その背景が展望として示されていれば良好。 =以上=